

人口が減少していく経済における豊かさとは何か

人文社会科学研究科教授 倉阪秀史

成長

「フロー」概念：ある期間内に生み出された経済的付加価値量で測る
(例：国内総生産)

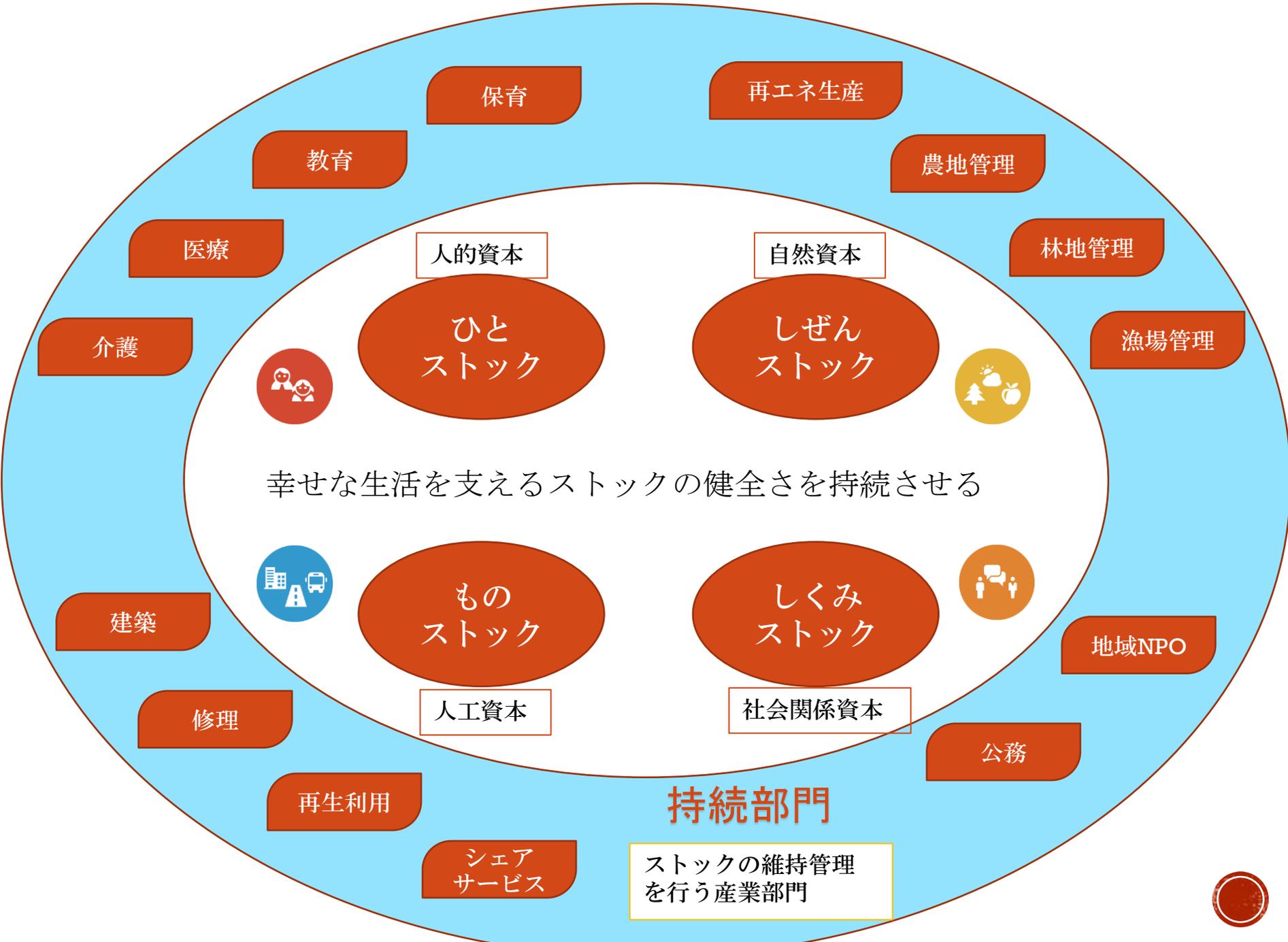
より多く生産消費する経済

持続

「ストック」概念：
社会生活を支える有用性を生み出す資本ストックの健全さで測る

より少ない資源エネルギーで
必要なストックを持続させる経済





保育

再エネ生産

教育

農地管理

医療

人的資本

自然資本

林地管理

介護

ひと
ストック

しぜん
ストック

漁場管理



もの
ストック

しくみ
ストック

地域NPO

建築

人工資本

社会関係資本

公務

修理

再生利用

持続部門

ストックの維持管理
を行う産業部門

シェア
サービス



何を目指して経済運営を行うか

完全手入れ

介護労働者、建設業従事者、農林水産業従事者など、将来的に不足していく。「完全雇用」ならぬ「完全手入れ」の状態を実現すべき。

介護されなければならない人の何割が介護されているのか
維持管理しなければならない人工物の何割が維持管理されているのか
手入れをしなければならない農地・人工林の何割が手入れされているのか

1人当たりの健全なストック量の確保

人口減少下でも、1人当たりの健全なストック量を増やしていくことは可能である。ポジティブな目標設定ができる分野。

健康人口割合、要介護者比率、認知症患者比率

1人あたりの「健全な」建物量・道路延長・管路延長

1人あたりの「健全な」農地・林地面積

地域的食糧自給率、地域的エネルギー自給率



文理融合型研究分野としてのストックマネジメント

理系知

どの資本基盤が「手入れ」を要する状態か
ある資本基盤を健全な状態に保つためにこれからどの程度の「手入れ」が必要か

文系知

どの資本基盤を残していくべきか
どのようにして合意形成を行うか
「手入れ」に要する労働力や費用をどのように賄うか

ストックマネジメント
(資本基盤マネジメント)

各地域において維持すべき資本基盤総量を見積もり、合意形成を図る。
手入れしない資本基盤を手入れの要らない状態にする。また、手入れする資本基盤の手入れが行われるようにする。



やちよ未来ワークショップ2016.11.23







ちば 首都圏

千葉総局
〒260 0013
千葉市中央区中央3-10-4
☎ 043-223-1911
☎ 043-223-1931
mail chiba@chiba-nippon.com

京葉支局
〒273 0035
船橋市本中山2-1-18
☎ 047-335-2141
☎ 047-335-2110
fax 047-335-2110

成田支局
☎ 0476-32-5840

柏支局
☎ 04-7167-8175

松戸
☎ 047-369-2418

木更津
☎ 0438-23-2424

船山
☎ 0470-22-3155

茂原
☎ 0475-22-2228

銚子
☎ 0479-22-0241

きょうの天気

6-12時 段水曜 12-18時

0	千葉	10
0	我孫子	10
0	銚子	10
0	木更津	10
0	館山	10

千葉 北西 木更津 館山
我孫子 北西 銚子 西



中高生たちが未来の街づくりを話し合った=昨年11月、八千代市



夢はかなう 可能性は無限

未来



7 中高生たちの予想図

20XX年に、私たちが暮らす街はどんな姿になっているだろう。ちょうど2000年の前後に生まれ、た今の中高生たちは、次代を担う、まさに主人公た。様々な未来予想図を見てきた連載の最後に、彼ら、彼女らが思い描く未来を聞いてみた。

20人の中高生が昨年11月23日、八千代市市民会館の「学校ごとに耕作放棄地を一室に集まった。四つの班に分かれ、2040年の「未来の市長」に就任したという設定で、自分たちの街の将来像をテーマに語り合っていた。

高齢者問題、農業、空き家対策、介護、エネルギー……。それぞれが考える課題や解決策を次々と付箋に書き出し、模造紙に貼っていく。中高生に街づくりを提言してもらう「未来ワークショップ」の一場面だ。班ごとの提言発表では、様々なアイデアが飛び出した。「ロボットや機械が発達すれば、医療や介護に役立つられる」「高齢者や若者、いろんな人が集まることだ。」

「ロボットの機械が発達すれば、医療や介護に役立つられる」「高齢者や若者、いろんな人が集まることだ。」



メッセージを掲げるワークショップの参加者たち

将来を語り提言、考えるヒントに

八千代市を舞台としたには理由がある。住宅団地発祥の地とされる八千代台団地のはじめ、市内には多くの集合住宅が立ち並び、だが、少子高齢化や人のつながりなど、日本が直面する課題が山積みになっていく」と倉飯教授。

ワークショップは、研究グループが開発した「未来カルテ」を使い行われた。40年の街の姿を、人口や産業構造、医療や教育などの分野で詳細に予測するものだ。グループは3年前から、自治体の持続可能性を探る研究を続けている。カルテが示す予測をもとに将来世代に自由に提言してもらったことが、未来を考えるヒントになる。

倉飯教授は言う。「次代を担う若者が描く夢を夢で終わらせて、ひとつでも実現させていくことが未来にとって大切」と。

私たちが取材班はワークショップの参加者に、未来に託すメッセージをボードに書いてもらった。

「今を楽しめる社会に」「人々のつながり」「最高の未来を」。来たるべき時代への期待の言葉があった。

中学2年生の守屋有梨さん(14)たちの班は5人で、少しずつ変えていこう。という文を記した。「大きく変えるのは無理だけど、少しずつなら私たちでもできると思います」。守屋さんは笑顔で語った。

別の4人はこう刻んだ。「未来は変えられる!」新しい未来は「8」(無限大)だ。(石平典興) おわり



やちよ未来ワークショップでのアンケート調査の結果（抜粋）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

① 地域への愛着

八千代市が大好きだ

45%

45%

5% 5%

② 地域への興味関心

八千代市に貢献したい

75%

10%

10% 5%

八千代市の問題もっと知りたい

70%

25%

5%

社会・地域問題をもっと話したい

40%

45%

10% 5%

③ 自己影響の有効感

私に関われば現状を変えられる

60%

20%

20%

私に関われば市の決定に影響を及ぼせる

50%

25%

25%

(n=20)

- ワークショップに参加したことで、前よりそう思うようになった
- ワークショップに参加する前から、そう思っていた（あまり変化はない）
- ワークショップに参加したけれど、あまり、あるいはまったくそう思わない
- 無回答